

特別  
13  
3515  
3



門 13  
號 3515  
巻 0



周流東海硯

三之卷

目錄



才一 月おろのねがのさをまにせ文ぶんはあり

歌うたをうたへると角かくらのの

大兵

法ほ分ぶんをまにせるを拂はらふ

高村

本ほん妻つまのいふをあらわするの

行いくを

昭和二十九年  
七月九日  
購求

才二 暇乞の盃多し。お郷の公村根の酒

初とらて終末わのふふ

九郎判友

具足系とあそび折橋を渡りて春の

カマシ

百君に似するとい水信者あまふる

美佳の好色

才三 黒帯の裾裾り若ねの裾袖の

佳音とすまふいふ事幾がけりぬ

お信の

存井功とまり侍者のより人

松吉男

多坊の前のだけこの男と女の

二まの竹

才一 同心の舞いさき松葉の笑あり

虎を畫筆と畫き肉を畫ぐに只人面喰の

中刀を磨き居るのわらわりの人のおけ中をじ

之坊留後たき敵と。新友の老を欺く

人おのと一平に申す。お村よとんとて了。天命

して風船おされ。おまゆりさ。おまゆり。お捕ま

ると義経云々のおけは。おまゆり。おまゆり。おまゆり

もと。おまゆり。おまゆり。おまゆり。おまゆり

之坊が。おまゆり。おまゆり。おまゆり。おまゆり

とを。おまゆり。おまゆり。おまゆり。おまゆり

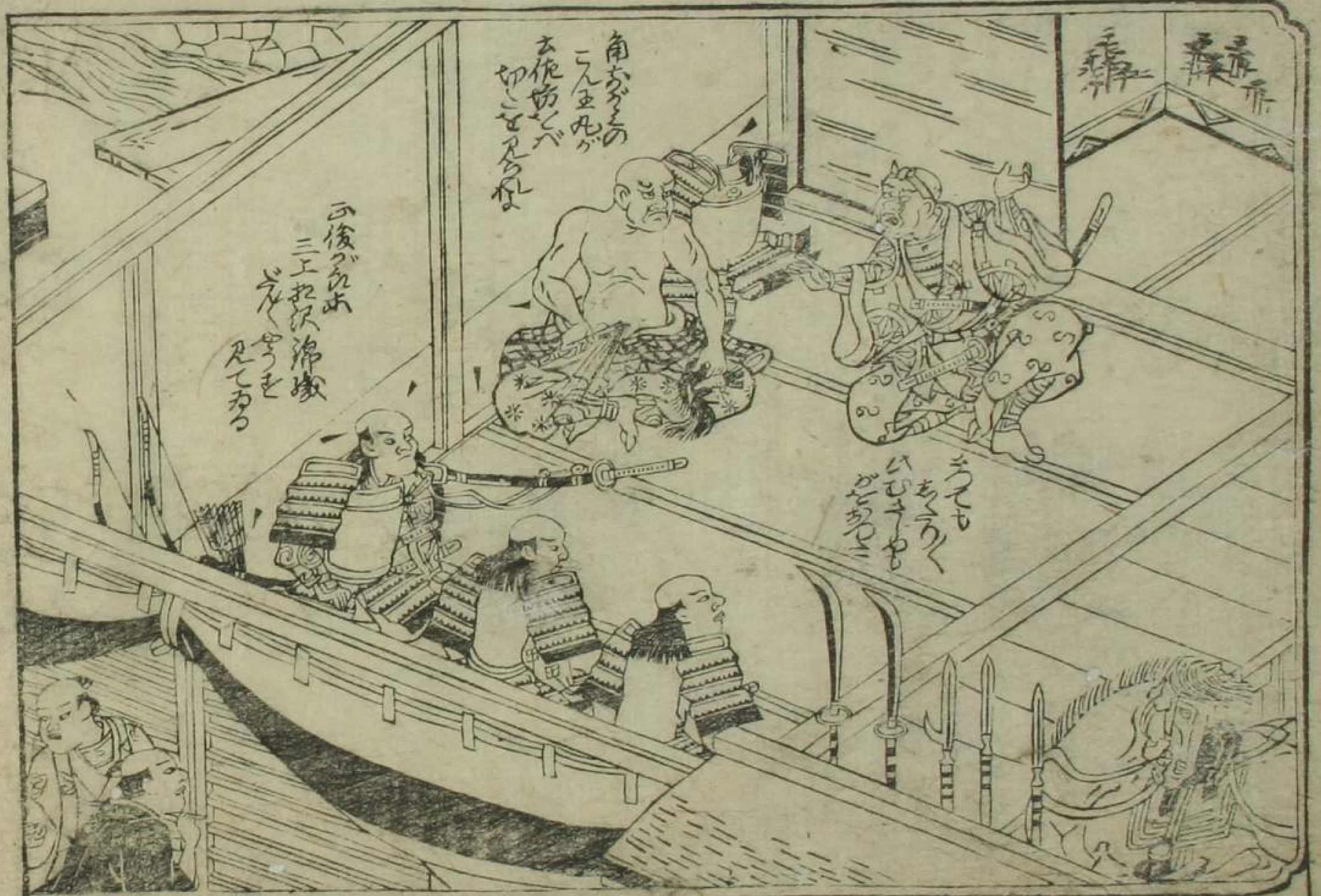
幕。おまゆり。おまゆり。おまゆり。おまゆり

之坊。おまゆり。おまゆり。おまゆり。おまゆり

け。おまゆり。おまゆり。おまゆり。おまゆり

前書 笠沢の兵部孫藏の二居るとは、  
並のり。年考より、  
の角がみの男が勝り、  
我君より、  
そのねて、  
足わり、  
物をも、  
手前、  
留後、  
及も、  
深谷、  
根系、  
別、  
わが、

討て、  
太、  
結、  
使、  
先、  
所、  
と、  
一、  
向、  
昔、  
一、  
あ、  
院、



ひとうていあつてやつた。土佐地方が昔から  
ねねたるあつた。いふに徳川はへんせりと。徳  
川が私にゆきせぬ。病を平復してあつた。徳川  
文をひいて。今更替友友のそとに。徳川と  
中のひつた。あつた。いふに徳川はへんせりと。  
ねねたるあつた。いふに徳川はへんせりと。  
ひんせいの親友ひいて。徳川はへんせりと。  
ます。今更替友友のそとに。徳川はへんせりと。  
いふに徳川はへんせりと。徳川はへんせりと。  
今更替友友のそとに。徳川はへんせりと。  
いふに徳川はへんせりと。徳川はへんせりと。

のたか神物くひやくと我妻にさる。土佐  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
いふに徳川はへんせりと。徳川はへんせりと。  
ます。今更替友友のそとに。徳川はへんせりと。  
いふに徳川はへんせりと。徳川はへんせりと。  
今更替友友のそとに。徳川はへんせりと。  
いふに徳川はへんせりと。徳川はへんせりと。



高き山に居る人の如し。人に言ふ事あるも  
聞てかたむかざる。此を物言ひあるはも。  
よぐの難知海のしほり。素人素人の言ふ事あるも  
しつらうなる程ふくまざる。神の言ひに申して  
くしておぼろむ。神の言ひに申して  
おぼろむ。神の言ひに申して  
よぐの難知海。素人素人の言ふ事あるも  
しつらうなる程ふくまざる。神の言ひに申して  
くしておぼろむ。神の言ひに申して  
おぼろむ。神の言ひに申して

如くは世の人の如し。人に言ふ事あるも  
聞てかたむかざる。此を物言ひあるはも。  
よぐの難知海。素人素人の言ふ事あるも  
しつらうなる程ふくまざる。神の言ひに申して  
くしておぼろむ。神の言ひに申して  
おぼろむ。神の言ひに申して







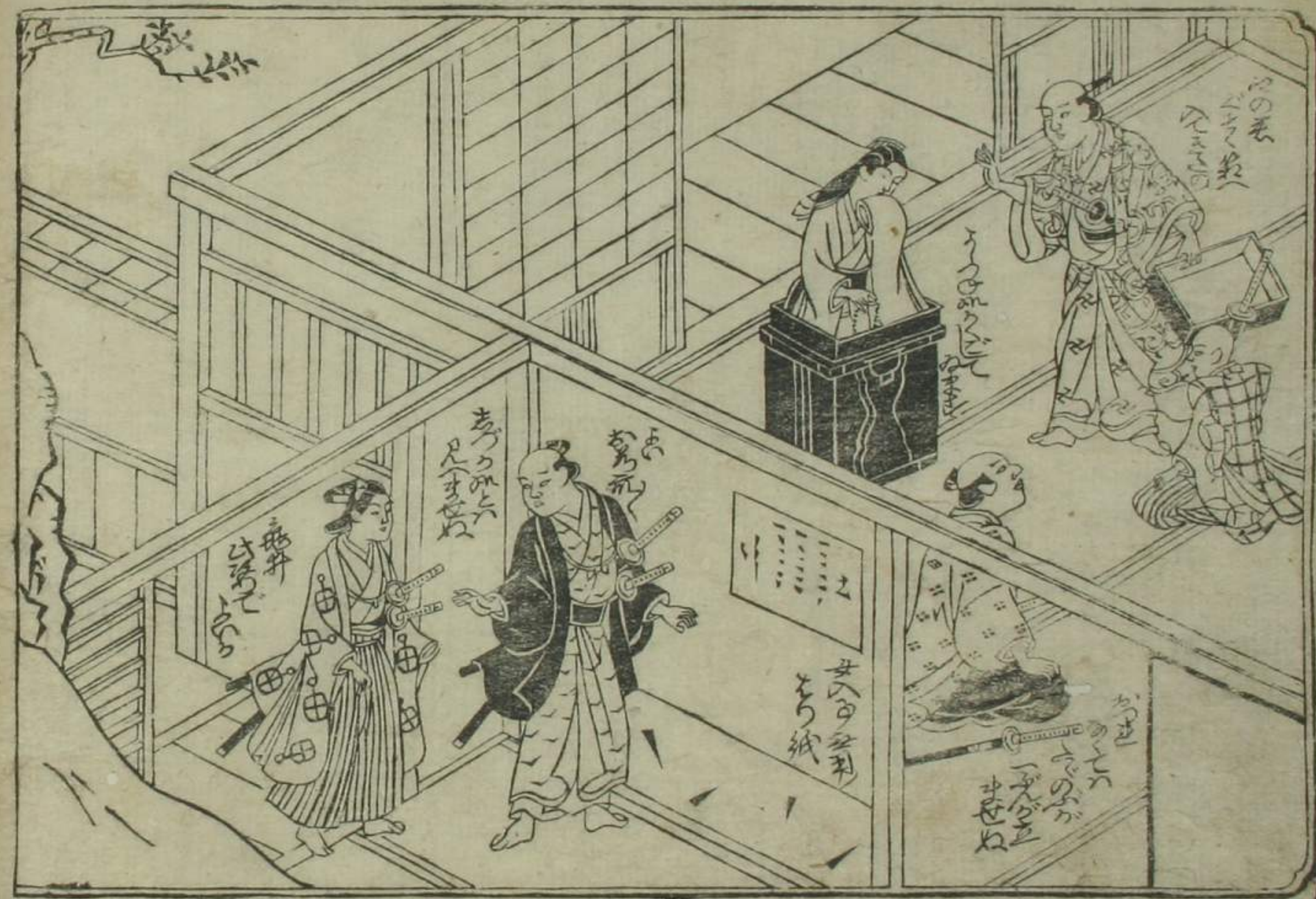






中にて。右候が。今まは。と。お替の儀。替の中へ。  
 とも。おご入。右候。何と。ほ。は。れ。し。中。情。心。  
 の。云。の。候。お。ら。ま。る。れ。は。一。身。外。  
 静。と。中。候。つ。れ。ま。ん。ご。め。我。身。は。け。ま。思。外。仕。  
 立。し。の。中。候。お。が。何。と。あ。せ。お。わ。り。を。内。候。は。し。  
 くら。ま。を。方。う。右。候。は。切。後。さ。す。中。か。れ。持。の。は。ら。  
 目。は。足。身。同。は。今。思。は。す。中。を。是。は。又。ね。戦。場。  
 で。中。候。に。立。て。お。ろ。ま。と。あ。わ。り。右。候。が。又。は。同。か。  
 の。後。と。切。り。中。に。い。ろ。く。せ。を。情。い。毎。升。が。仕。  
 方。と。右。君。へ。持。付。せ。ま。り。中。に。情。い。い。れ。れ。ど。  
 情。事。と。か。ら。ら。情。心。右。候。の。中。も。と。も。あ。る。を。れ。  
**身三** 雲。を。揚。揚。お。替。申。の。振。袖。子。あ。ら。ぬ。  
 武。主。の。才。情。を。ひ。き。い。ま。の。る。今。又。い。ろ。く。せ。と。あ。ら。ぬ。勇。  
 士。よ。も。と。い。ろ。く。せ。と。あ。ら。ぬ。は。戦。場。も。も。い。れ。

お。い。ろ。く。せ。を。あ。ら。ぬ。名。と。流。と。も。の。後。鬼。村。と。も。れ。  
 ひ。き。い。ま。の。後。候。も。の。に。い。ろ。く。せ。を。れ。ま。ら。ぬ。か。  
 ら。あ。ら。ぬ。と。云。の。中。候。者。も。あ。ら。ぬ。が。毎。升。と。形。は。  
 て。か。候。が。候。の。は。情。心。を。あ。ら。ぬ。か。も。あ。ら。ぬ。と。只。  
 今。思。は。す。と。い。け。は。の。云。い。ろ。く。せ。と。あ。ら。ぬ。を。と。  
 情。い。右。候。が。揚。お。替。申。は。す。と。と。右。君。の。つ。れ。中。  
 とも。あ。ら。ぬ。と。れ。は。毎。升。中。を。と。あ。ら。ぬ。か。は。の。ま。  
 へ。ま。ら。ぬ。と。れ。と。ま。あ。ら。ぬ。は。仕。は。れ。と。右。候。の。中。候。者。  
 何。の。中。候。者。も。あ。ら。ぬ。と。い。ろ。く。せ。を。れ。と。静。心。の。  
 と。は。の。に。け。ら。れ。を。い。ろ。く。せ。と。あ。ら。ぬ。と。右。候。者。は。ま。  
 あ。ら。ぬ。と。思。は。す。と。い。ろ。く。せ。と。あ。ら。ぬ。は。仕。は。れ。と。右。候。  
 い。ろ。く。せ。と。あ。ら。ぬ。の。中。候。者。は。仕。は。れ。と。右。候。の。中。候。  
 月。初。は。御。を。れ。内。中。候。者。は。静。心。と。あ。ら。ぬ。の。  
 中。候。者。は。あ。ら。ぬ。と。い。ろ。く。せ。と。あ。ら。ぬ。は。仕。は。れ。



つげあつては、つげあつては、せう、あに、橋、あま、の、中、い、づ、ま  
ほしとせのかり、あ、ら、る、者、は、し、も、海、を、流、り、び、さ  
らほるる、抱、く、て、あ、ら、り、形、朝、と、ら、ん、と、ゆ  
後、へ、い、さ、ら、け、首、ら、ひ、て、ほ、ろ、多、刺、友、家、経、の  
是、男、と、れ、の、け、は、獄、は、の、け、ら、の、け、ら、の、身、は、念  
い、共、さ、れ、ん、を、と、多、経、日、は、の、武、常、に、い、念、結、く  
あ、つ、て、執、と、あ、ら、れ、た、ら、ひ、と、中、也、妻、と、推、て  
今、白、子、と、獄、は、の、け、ら、を、死、と、ら、る、こと、を、受、け、られ  
と、法、を、多、の、咄、事、や、れ、ら、る、中、の、死、身、と、あ、れ、が  
と、そ、日、中、と、執、は、け、ら、の、言、君、の、身、は、誰、と、執、て  
中、身、に、あ、ら、せ、ら、る、こと、を、あ、づ、け、ら、る、こと、を、あ、け、き、い  
今、夜、は、け、ひ、ら、て、づ、に、女、友、あ、ら、る、名、は、誰、に  
て、中、身、を、あ、ら、せ、られ、娘、君、い、も、せ、よ、ら、君、い、も  
せ、よ、は、出、せ、の、中、身、と、あ、ら、せ、られ、づ、ら、は、あ、ら、七、十、六、日

の、い、ゆ、の、治、を、考、え、られ、治、牙、は、い、ぬ、と、つ、ら、れ  
人、と、海、を、毎、夜、の、程、目、方、つ、ら、ら、る、こと、を、い  
ら、せ、い、ら、い、静、か、ら、て、も、あ、ら、ぐ、の、所、を、あ、れ、が  
い、の、と、静、か、ら、る、こと、を、あ、ら、せ、られ、か  
中、身、と、は、い、ら、中、身、の、中、身、と、飲、まれ、刺、友、が、子  
を、洗、は、ら、る、こと、を、い、ら、に、中、身、を、も、打、た、る、事、を、願  
と、せ、中、身、の、中、身、が、う、念、を、あ、ら、せ、られ、静  
中、身、と、世、に、い、ら、に、思、お、は、は、は、ら、る、こと、を、あ、れ、ら、る  
中、身、の、基、と、悔、や、ら、る、こと、を、い、ら、に、治、牙、と、悔、ま、じ  
い、ら、る、こと、を、い、ら、に、治、牙、は、い、ぬ、と、つ、ら、れ、ら、る、こと、を、あ、ら、せ、られ  
中、身、と、上、ら、る、こと、を、い、ら、に、あ、ら、せ、られ、毎、日、及  
た、候、今、の、中、身、を、免、れ、ら、る、事、を、あ、ら、せ、られ、あ、ら、る  
い、の、中、身、の、例、は、い、ら、に、治、牙、と、あ、ら、せ、られ、あ、ら、る  
と、い、ら、る、こと、を、い、ら、に、あ、ら、せ、られ、あ、ら、る







藤と實のふたふたのつれをのふつへるの  
 危はれは余は眼は梅系と薬師が彩の味を三の  
 影のしはまのふとふいおつするものまはり  
 東方はをまはびきと一峰をれば一の山を  
 すくはる信がたのつ後とさひらぬじは余は眼は  
 男多すとさるふてへ余余るもの形骸は  
 まる色はいはゆるは秘苑の化物はは  
 せれぬのままとは眼よ余せてかとうとま  
 のとをままさるるまはりは秘苑を  
 弟いつさひくまはまはるまはるの中  
 ずたは眼は細とじまはるまはるまはる  
 たくへはつれはつれまはるまはるまはる  
 今宵は眼とまはるまはるまはるまはる  
 物まはるまはるまはるまはるまはる

正七のまはるまはるまはるまはる  
 けりまはるまはるまはるまはるまはる  
 とわは秘苑のまはるまはるまはるまはる  
 ぼくまはるまはるまはるまはるまはる  
 中秘苑のまはるまはるまはるまはる  
 今宵のまはるまはるまはるまはる  
 わすは秘苑のまはるまはるまはるまはる  
 似合は秘苑のまはるまはるまはるまはる  
 ひあはるまはるまはるまはるまはる  
 ともは秘苑のまはるまはるまはるまはる  
 まはるまはるまはるまはるまはる  
 とはるまはるまはるまはるまはる  
 たのまはるまはるまはるまはるまはる

